

第一節 方位

家屋の方位は、主として地理的事情に基づきて選定すべく、尙ほ四圍の關係、家計の都合等を斟酌せねばならぬ。地理的事情としては、採光、通風に重きを置き、寒暑の強弱に基づき、主風の良否、風の強さ、降水の多寡を考へること等である。

第二節 構造

家屋の構造には、日本式・西洋式・折衷式等がある。日本式は、我が國の住宅の殆んど全部を占める。都會には、多少、西洋式家屋を見、折衷式が次第に發達して、並立的若しくは調和的の様式を呈して居る。

普通の住宅は、平屋で、家屋の實際に適すれど、地價の高い場處では、止むを得ず、二階乃至三階造にすることがある。これ

木造・塗屋・土藏
造・石造・煉瓦
造・鐵骨鐵筋混
凝土造

座式と立式（椅子式）とがあり、近來は立式に依

るものが多い
屋根
草葺・板葺・瓦葺・通鉛板葺・石葺板葺
勾配式（降屋根）
平坦式（平屋根）
運動場
屋上庭園

居室
A 共用的
客間
食事室

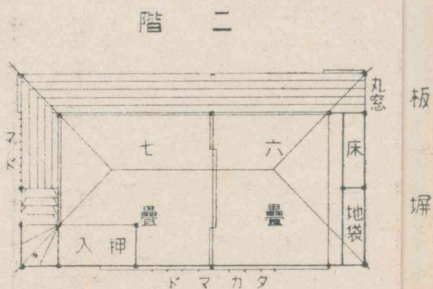
等は、通風・採光に宜しく、外觀・壯麗・瀟灑なるも、家庭生活上、簡便を缺き、稍、團欒の趣旨に背き、經濟上にも適切でない。

第三節 間取

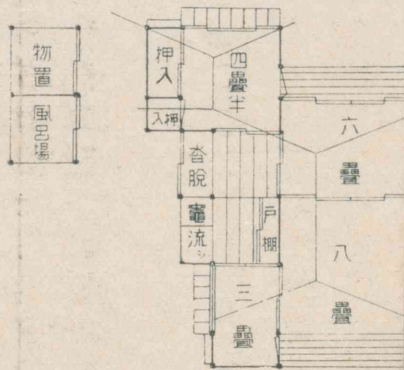
間取とは、屋内の區分（間室）及び其の配置（取方）をいひ、家屋の效用上、極めて重要なことである。間取が適切なれば、主婦の活動が便利なる上に、理想的の家庭を實現するに對して、關係が頗る深い。間室の配置は、衛生・便利・趣味・經濟等を考慮することを必要とする。各室の専用を妨ぐることなく、且つ相互の關係を密にし、又取締の都合をも圖らねばならぬ。

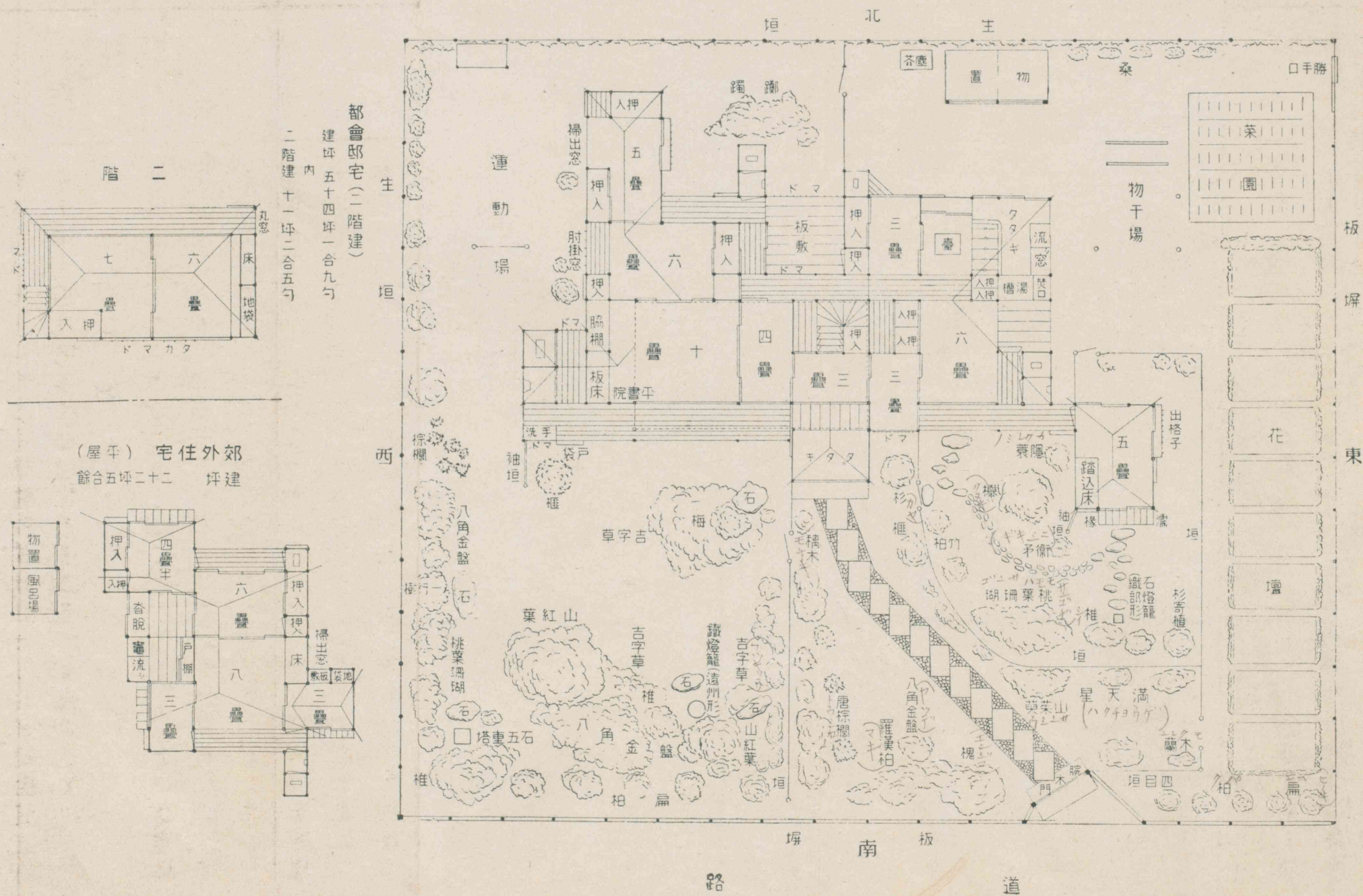
第四節 間數

間數の多寡は、家族の人數、生計の程度、業務の狀態等によつて決定せられる。中級の家庭にては、玄關・客間・居間・部屋・臺所・



（屋平）宅住外郊
餘合五坪二十二 坪建





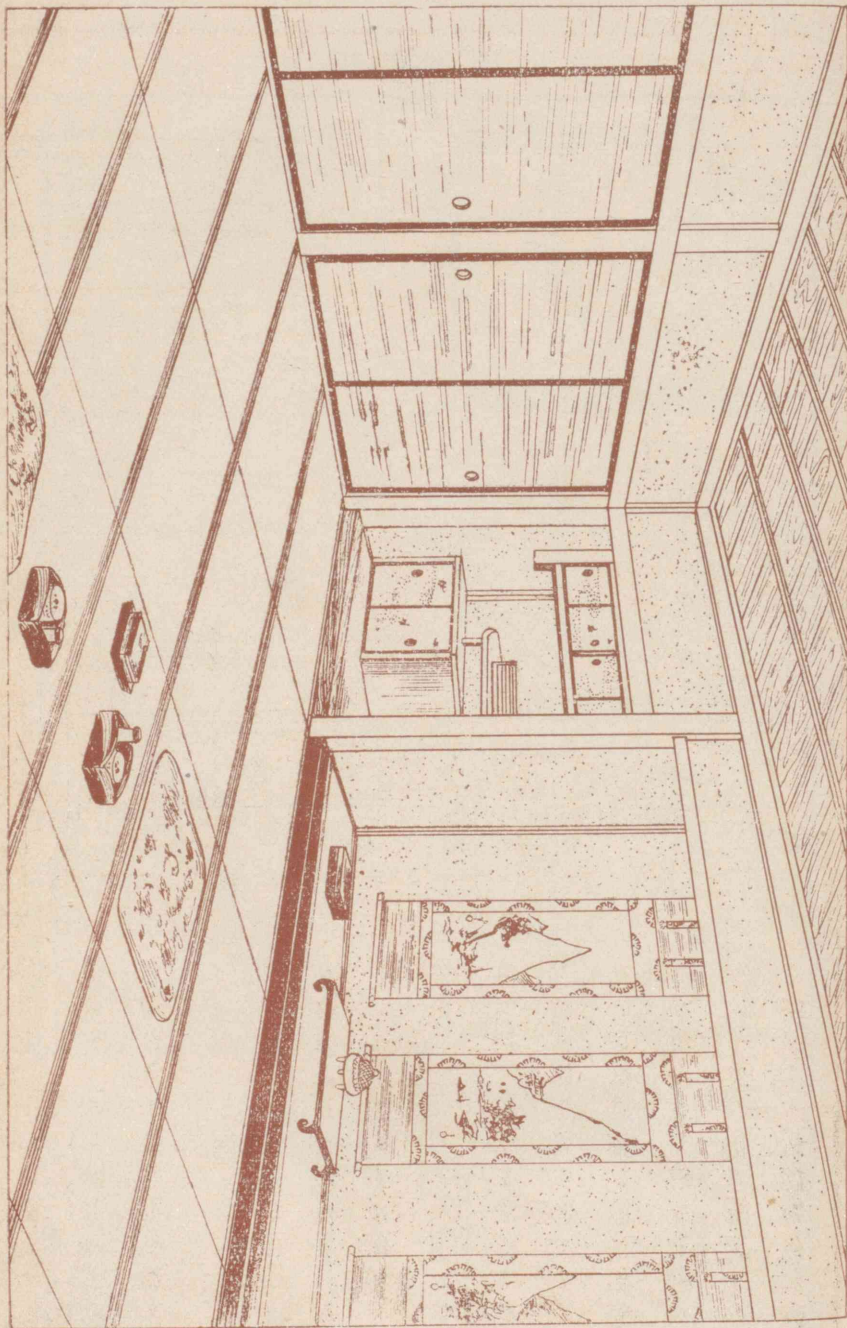
B 專用的
居間
主人用(書齋)
主婦用(寢間)
部屋
老人用・兒童
用・女中用・書
生用

湯殿・納戸・物置・便所等を要部とし、これ等間室の利用に便じ、縁側・廊下・階段土間を備ふる外、押入・戸棚・釣棚等を設ける。而かも經濟等の都合に依つて、或は客間・小座敷・茶室・書齋・次の間・部屋・土藏等を増設し、或は客間と主人の居間・茶の間と主婦の居間・老人の部屋と子女の部屋とを兼用するを便とし、納戸・湯殿・書生部屋・男屋屋等を缺くことがある。従つて間數は、十室内外を普通とすれど、多きは十五室を超え、少なきは六間・五つ間を以て足れりとする。

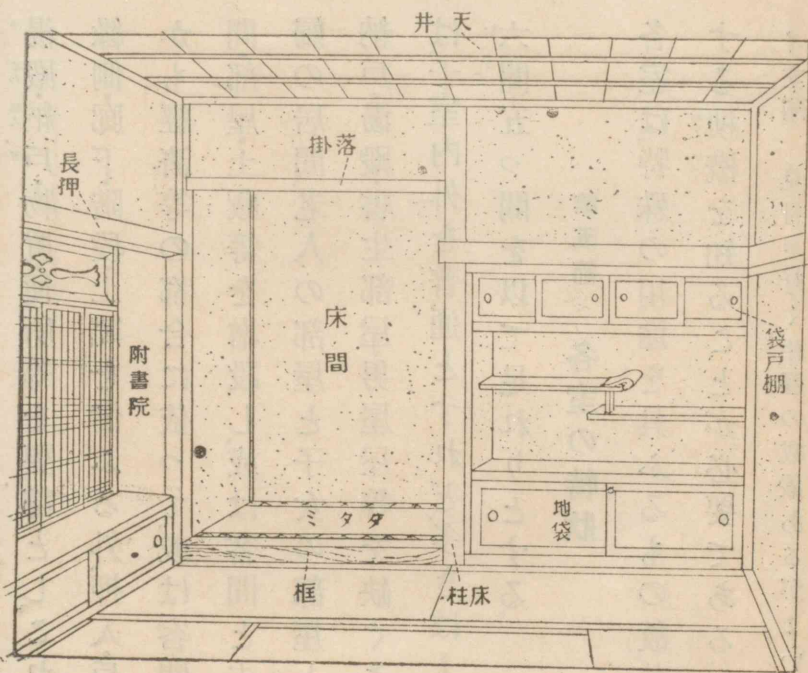
第五節 各室の特狀

各室は、特殊の用途を具ふるもの故、其の廣狹・位置・設備に關する梗概を知ることが必要である。

イ、玄関 見付き好く、相應の威嚴あるがよい。而かも簡潔を旨とし、尊大の

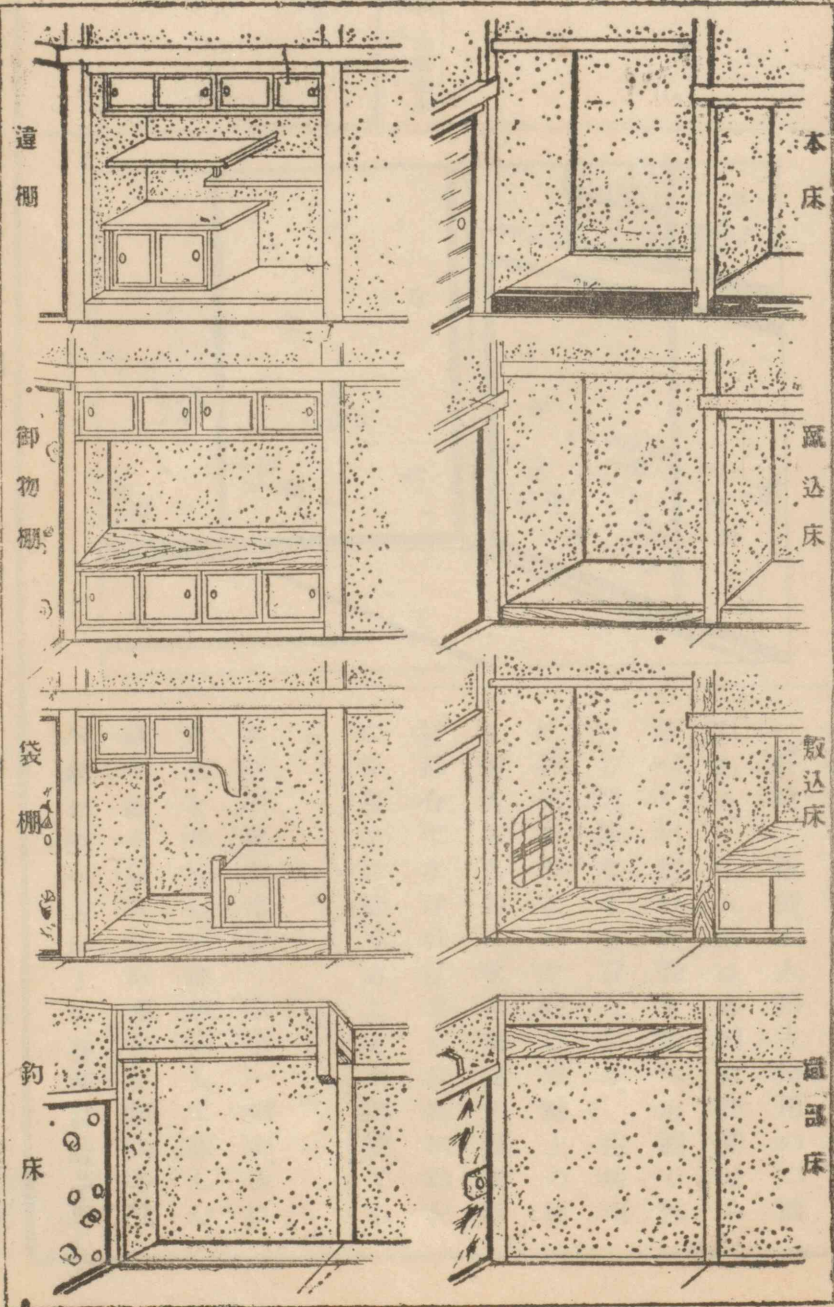


圖解 床の間附
近の説明

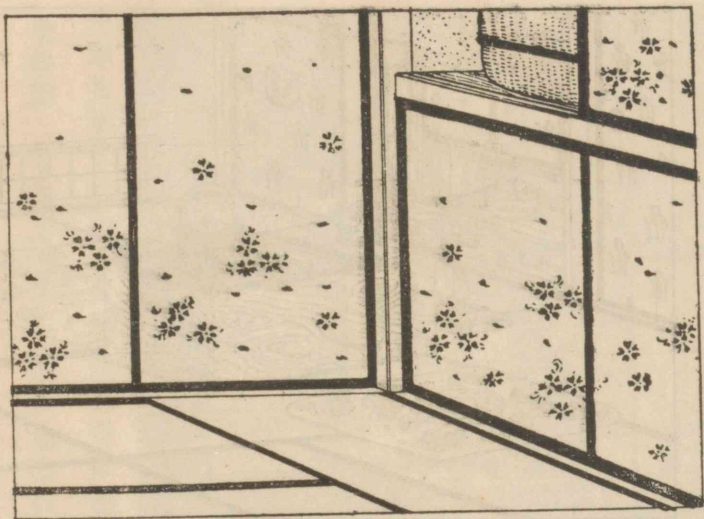


弊に陥りてはならぬ。敷臺
あるが本式なれど、多くは
之を省きて沓脱石を据え
る。
内玄關には、土間を設けて
沓脱場とし、普通格子戸を
建てるが、取締上に便利で
ある。
口、客間 來客を迎へる場
所で、所謂上段の間である。
床の間、袋戸棚を設け、相應
の裝飾を施し、庭園を控へ
るが適當である。玄關や茶
の間に近く、居間部屋に直

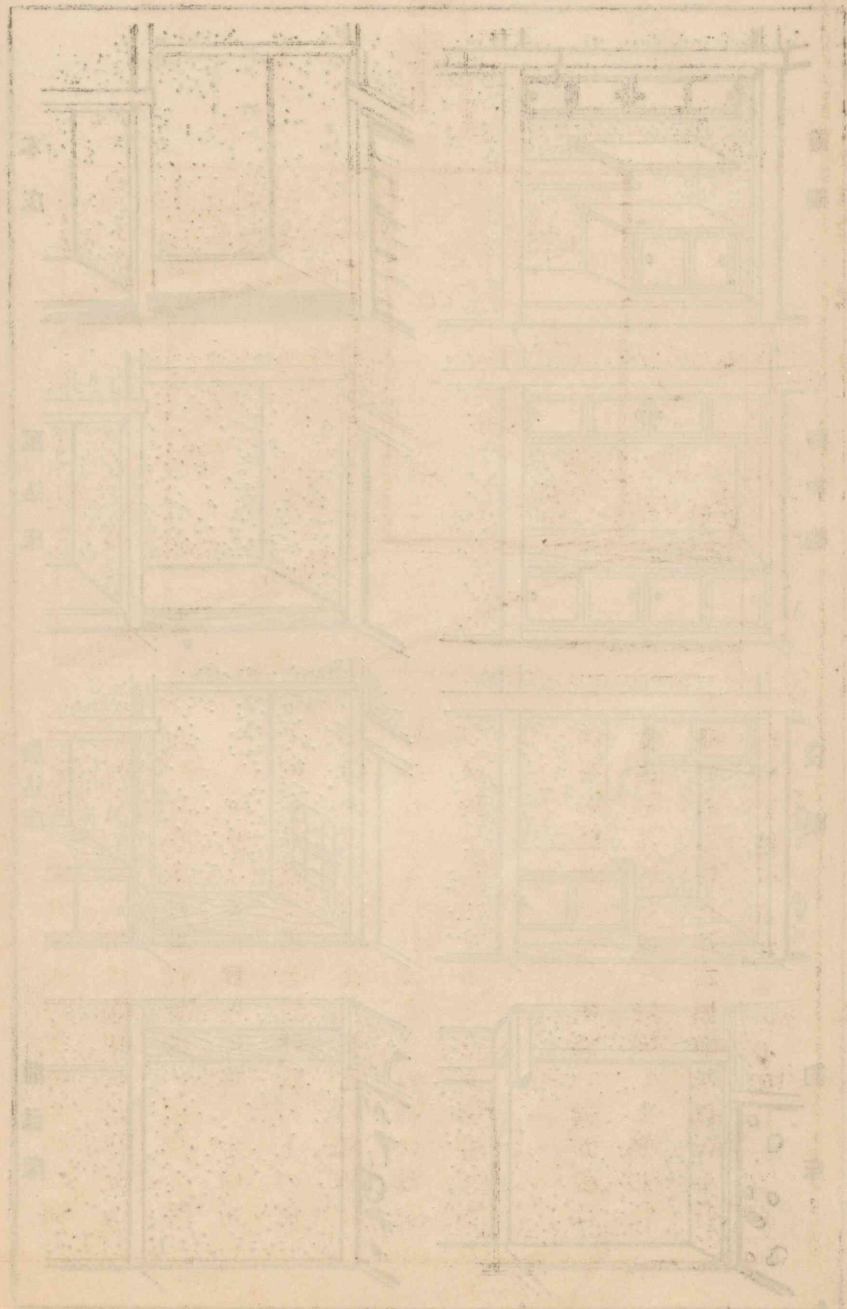
棚 及び 床



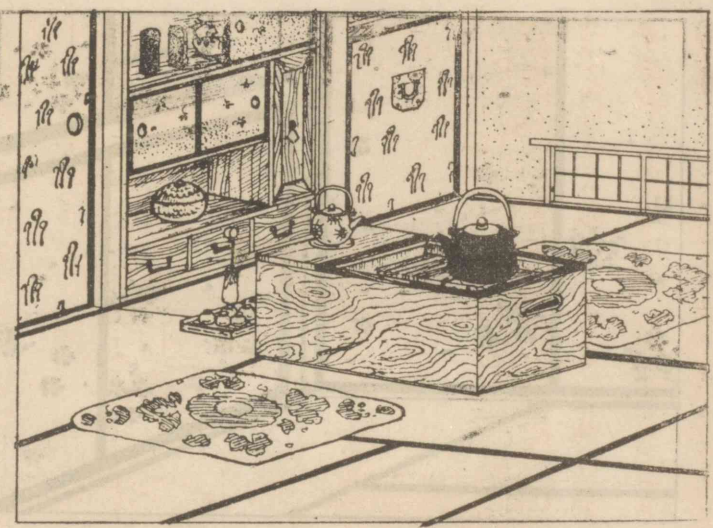
圖解 主婦用の
居間



接せざるがよい。
ハ、居間 通例、主人用、主婦用の二間がある。主人用は、客間に流用せらるべく相應の裝飾を加へ、庭園を控へて閑靜なるを旨とする。主婦用は、押入、戸棚などを設け、取締上の便を備ふると共に、また日常の起居に好都合でなければならぬ。殊に幼児の育養上に適することが必要である。
ニ、茶の間(食事室) 家族一同が、或は食事を共にし、或は談笑して樂しむ處である。長火鉢、茶棚等を備ふる外、小庭を控へるがよい。臺所に近さが



圖解 茶の間

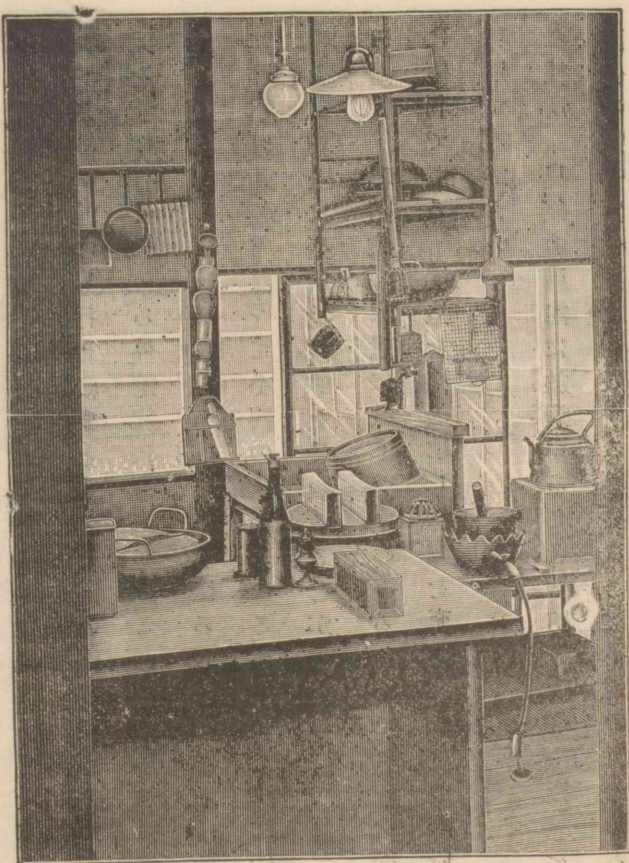


で、取次を兼ねる場合には、玄關より遠からぬ處に置くがよい。

便利である。
ホ老人の部屋 異^{ちが}の方位が適當である。而して老父と老母とは、自ら要求を異にする故、内部や庭前の設備に關し、それ／＼工夫の必要がある。へ、子女の部屋 年齢、人數等に依つては、二室以上を必要とするが、専用の趣旨に基づき、簡單で而かも適切な設備を施すがよい。
ト、書生部屋 玄關の近くに設ける。
チ、男部屋 門の傍などに設けるのが便利である。押入を必要とする。
リ、女中部屋 臺所に近いのが便利。

圖解 臺所の一部

脱衣場
化粧場
洗面場



や水を使ふに適する。また、板敷は、盛附其の他に都合がよい。
ル、湯殿 日當り好く、寒氣に曝されぬやうにする外、水の便を圖り、掃除の容易なることが必要である。そして洗濯場に流用することがある。

又、臺所 清潔を必要とするが故に、採光、換氣に意を用ふる外、掃除の便を圖り、整頓し易きやうにする。土間を設け、敲^{たた}とするのは、火

ヲ、納戸 衣類器具類を藏める處で、風通しを好くし、濕氣を避けねばならぬ。殊に戸締に注意する要がある。土藏に造れば、火災盜難等に對して、一層有利である。物置には、薪炭漬物雜具を藏め、陰濕を避けねばならぬ。

ワ、押入 家具家財等の整理上必要なるもの故、各室に設くるが便である。夜具戸棚は、竝の奥行を必要とすれど、其の他は奥深さが不便である故、押入を背中合せに作る外、適宜に利用することを考へねばならぬ。

カ、縁側廊下 各室の獨立と連絡とを圖るものである。一間幅にして疊敷に作れば、入側となつて小間の代用となる。又、敲の土間に仕上るときは、通路となる上に、臺所物置等を兼ねることが出来る。

コ、階段 二階建の家屋に缺くべからざるもので、勾配を緩くすれば昇降に便利である。構造を堅固にし、採光を充分にし、且つ階段下を押入等にご利用するがよい。

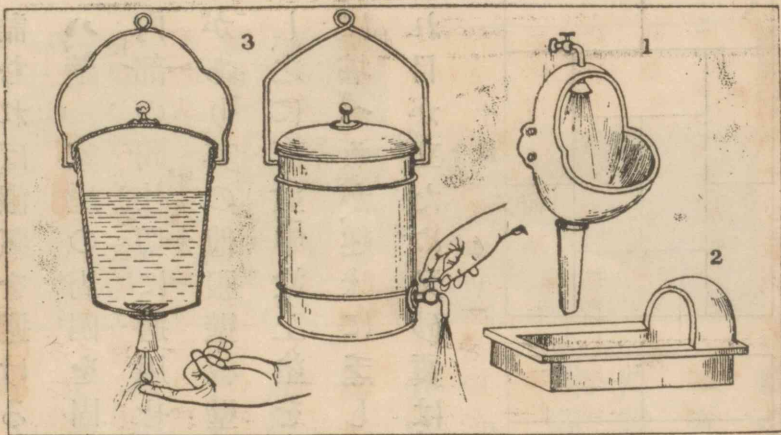
タ、便所 臭氣の屋内に放逸することを防ぎ、内部の換氣を圖る等、特殊の設備を施せば、位置を制限する必要なきも、構造の粗末なる場合には、糞尿

の浸出を防ぎ、陰濕と過度の照射とを避け、換氣に注意し、殊に低き掃出し窓を設けて、掃除し易き様にする。

第六節 造作

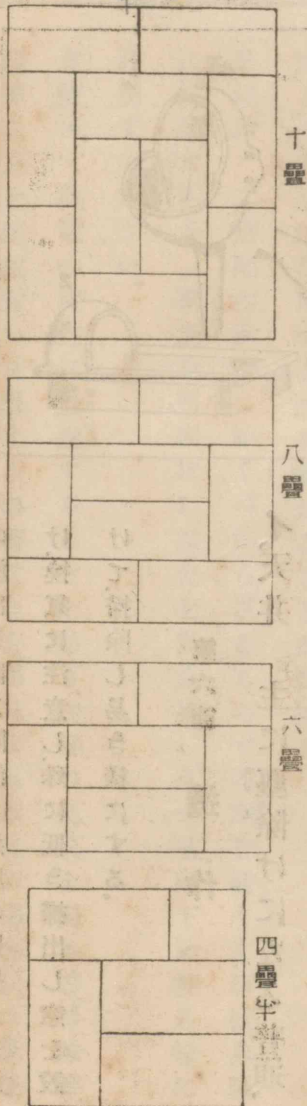
イ、天井 主に塵除けになる。普通、杉板で造り、拔節壺等の虞なきものを選ぶが可い。塗天井は簡便でよく、張天井は不經濟である。口床 多く松板で張るが、往々張り方を等閑にする弊がある。疊の敷込、床下の掃除に差支なきやうにせねばならぬ。ラバロイドを敷

圖解 便所用器
(1 小便所用 2
大便所用 3 手洗
水入)



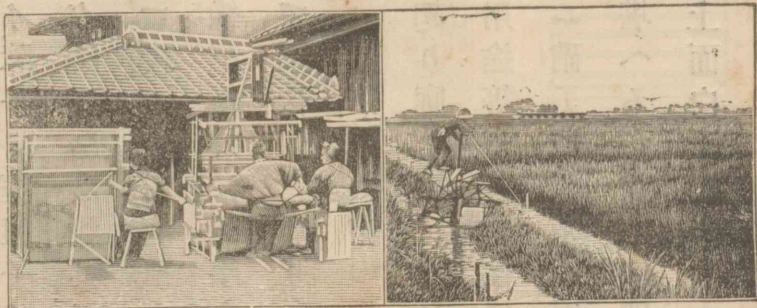
漆喰質
白漆喰・卵漆喰・
鼠漆喰・黒漆喰・
色漆喰
粘土質
泥・大津・黄・大津・
茶・大津・根津土・
大阪土

圖解 疊の敷方



詰むれば、濕氣を避けるに便である。椅子式には板敷とする。
ハ、壁 家屋の周圍を固め、専ら寒氣を防ぎ、風を遮ると共に、
内部の間仕切に適用せられる。塗壁に眞壁・木摺・鐵筋・混凝土
があり、其の他、張壁・板壁がある。眞壁は、木舞を搔きて下地と
し、之に下塗・中塗・上塗を施す。土塗として、漆喰質は丈夫で水
に堪へるが、趣味に乏しい。粘土質は、外觀が平凡なれど、汚
れ目が立たぬ。又砂質は様々ありて何れも丈夫でないが、外

圖解 備後表の
原料たる藁の漚
漚・敷物ともな
る花簾の織り方
表と縁
備後表(引通し)
早島表(中繼)
琉球表
紺縁
高宮縁
高麗縁



觀が優雅で、裝飾用に適し、座敷向である。
ニ、窓 室内に日光を引き、風を通ずる爲
に設けられる。掃出窓・肘掛窓・書院窓・天窓・
欄間等がある。

第七節 敷物

疊は、床と表とより成りて、時には無縁に
仕上ぐれど、多くは縁附である。疊床は、
品種によつて厚さ・刺數を異にし、硬軟を
生ずる。疊表は、引通し・中繼等に作られ、品
種が甚だ多い。疊の敷き方は、室の廣さに
よつて異なる。

第八節 建具

イ、障子 框組子で骨を作り、之に單へ紙を貼り付け、風を防ぐに用ひる建具で明りを透し、換氣に便である。

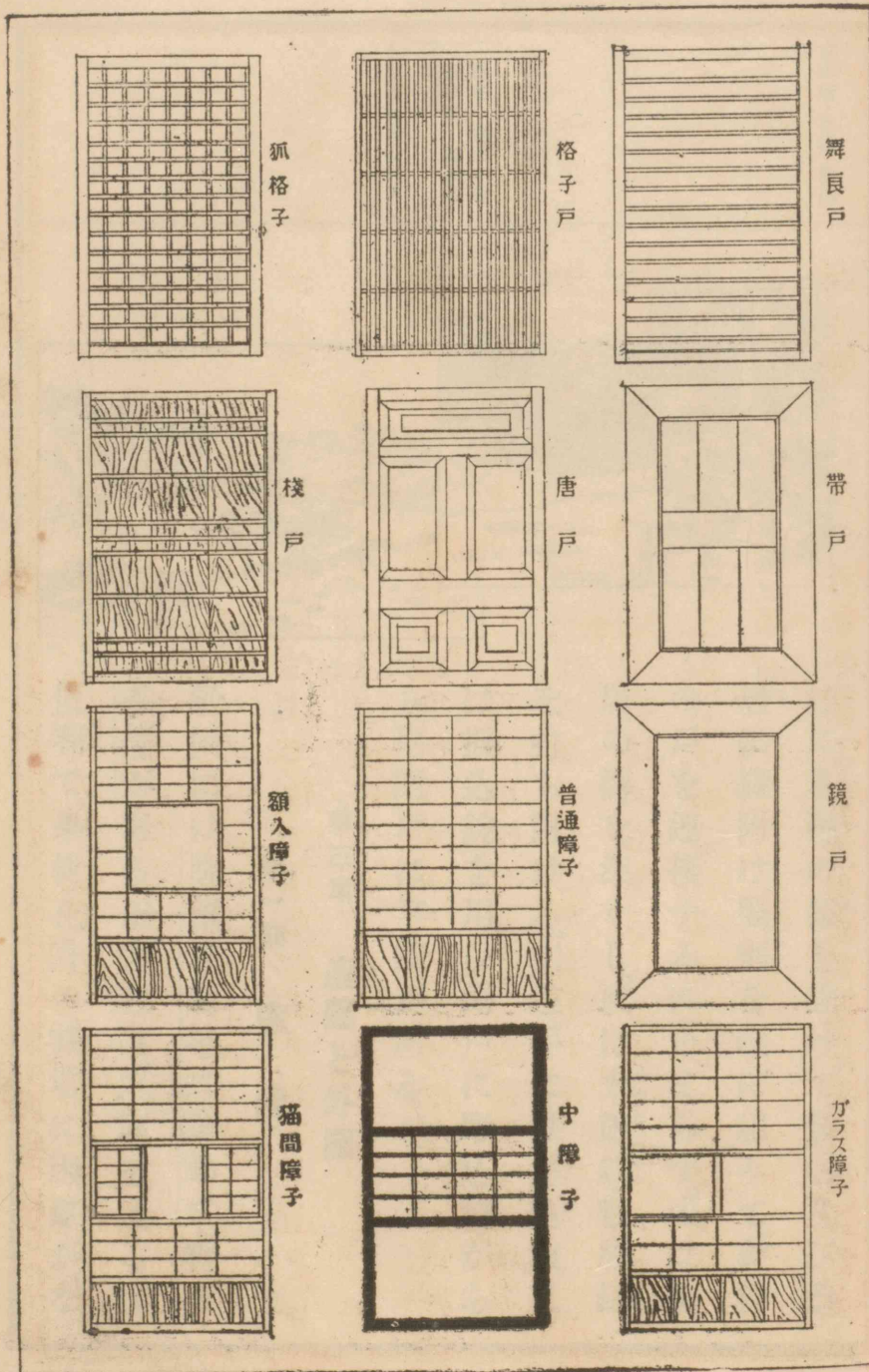
ロ、襖 俗に唐紙と呼び、骨の両面に下貼・中貼・上貼をなし、横縁・堅縁并に引手を取付けて、仕上げたものである。主として間仕切となり、多くは表裏の二面を呈する。

ハ、戸 建具中の最も堅牢なるもので、風雨寒冷を防ぐ爲、外廻り廊下等に用ひられ、殊に戸締を要する處に適する。構造、用途等で、若干種に分たれるが、板戸を主とする。

ニ、硝子戸 多く雨戸・風除けに用ひられる。透明で且つ水に堪へるが、重くて、破損し易い。明障子に代用する場合は、換氣上面白くない。

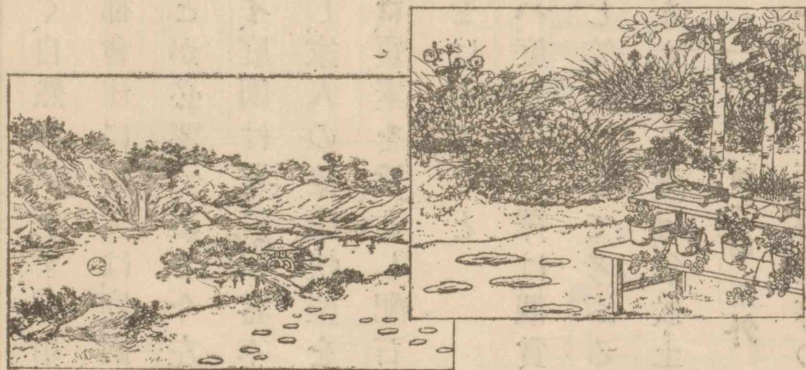
ホ、戸締 戸の開閉を嚴重にする装置である。雨戸の框又は

子障び及戸



猿^x 揚落猿・寄猿・横通

圖解 庭園(右
栽培式 左眺望
式)



棧^{さん}に、各種の猿^xを設けて、敷居及び鴨居に綴付け、堅框を蟻に組み、数枚の戸を連接するに止まらず、或は敷居の溝を深くし、或は太鼓鉦^{たいこ}敷居^{かすね}鏝^{ひら}を打ち附ける。引違戸には、差込猿又は振込錠を用ひ、開戸に彫込猿があり、兩開戸に竿錠がある。

第三章 庭園と外圍

第一節 庭園

庭園には、眺望式・栽培式・運動式・析衷式等がある。田舎住は、庭園を造るに便利で、果樹・花卉^{かき}の栽培に困難がな

く、自然の景色を利用して、風景園を造るに好都合であるが、都會住に於ては、庭園の設備に困難が多く、大に工夫するところが必要である。今左に、二三の注意を挙げよう。

イ、庭園は、單に接客本位に止めず、家庭の趣味と實用とに適し、家人の健康・快樂を完うするに資すべきこと。

ロ、質素を旨とし、配石を簡にし、飛石を省き、また通路の延長をはかること。

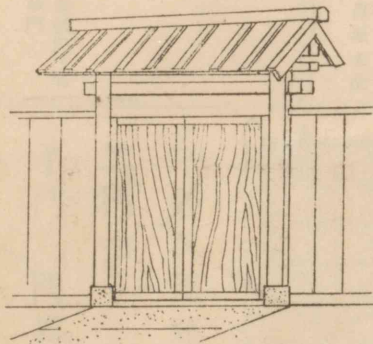
ハ、庭樹の選擇は、觀賞を主とするが、日除け、日當り、防風、目隠し等につきて考ふる外、手入の困難なるもの、毛蟲の生じ易きものを避け、氣候・土質に適するものを選ぶべきこと。

第二節 外圍

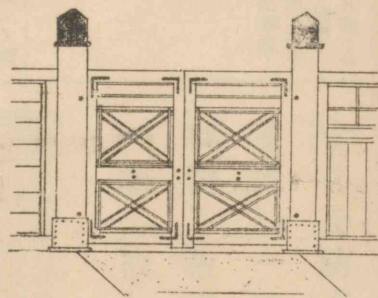
一、圍障^x 圍・塀・垣等の總稱で、所有地の境界に設け、^{かど}猥に出入

各種の門

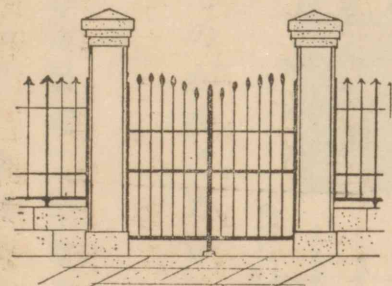
門屋板



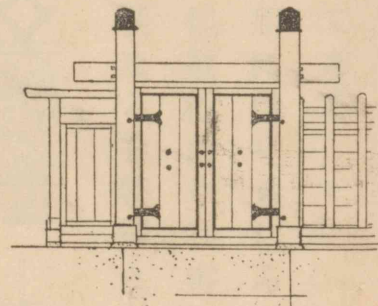
門塀塀



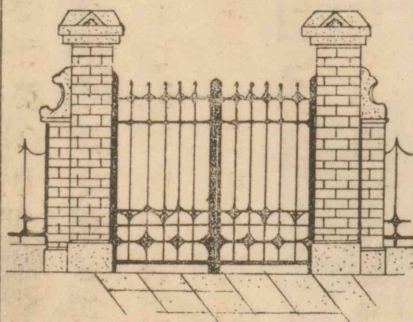
門風洋



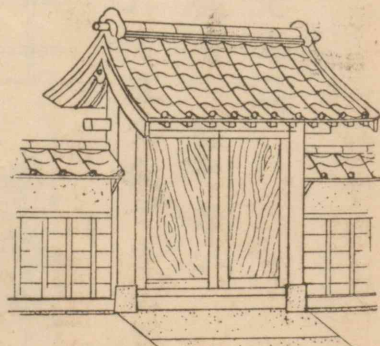
門木冠



門風洋



門根屋



煉塀・煉瓦塀・石
塀・生垣・袖垣・
柴垣・竹垣・四ツ
目垣・建仁寺垣

圖解 垣 (1 建
仁寺垣 2 袖垣 3
四ツ目垣 4 生
垣)

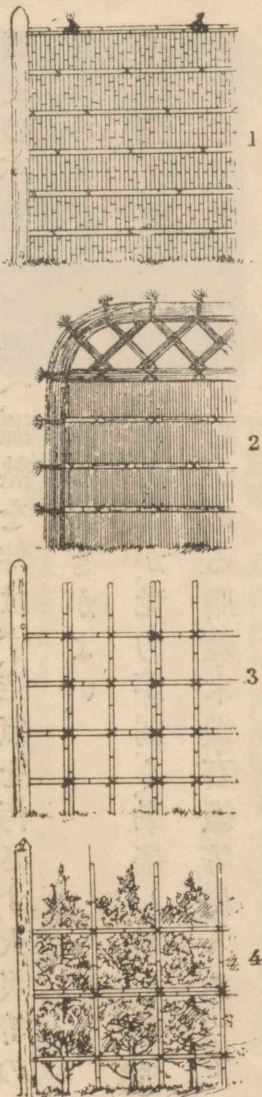
透打門・切抜門・冠
木門・長屋門

するを防ぐものである。

イ、圍 一時的の用に供せられるものである。

ロ、塀 板塀其の他數種あり、利害の關係も一樣でない。

ハ、垣 概して輕装なるを特徴とし、何れも丈夫向でないが、



一般に風雅なるものが少くない。

二、門戸

イ、門 門構に、輕装・重装の二派があり、構造は様々である。屋根のあるのは、雨天の際に便利で、品位もよいが費用が多い。

口戸 扉に一枚開二枚開あり、引戸に一本戸二本戸がある。潜戸は扉又は引戸に添へて設けられる小口戸である。

第四章 燈火

家庭の燈火の完全なるものは、點滅其の他使用上に便利で、適度の不動光を與へ、溫熱を伴はず、空氣を汚さず、火災等の危険の虞がなく、且つ價の安きがよい。

イ、蠟燭 輕便で安全であるが、光力が弱く、動搖し易く、油煙を生じ空氣を汚す缺點がある。脂蠟、木蠟、石蠟等様々あつて、それゝ利害を異にするが、ステアリン蠟を最良とする。蠟燭及び燭臺は、祭事佛事に必要なる外、備品として用意し置けば、電燈、瓦斯燈等の故障起る場合に好都合である。提燈は、田舎住を爲す者の必要具であるが、都會住の者も、非常用に

各種提燈
小田原・テラ・弓
張・箱・高張・軒
提燈・岐阜提燈

脂蠟の一種

備ふべきである。又祝祭用・納涼用として行はれる。

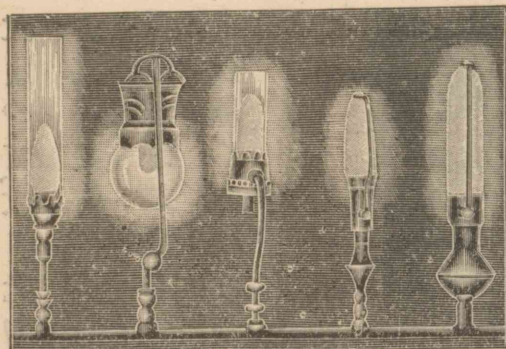
ニ、ランプ 植物性油燈・礦物性油燈がある。前者に、通油式・送油式があり、調節燈は、良好なるランプとして、今に賞用せられて居る。後者に、揮發油燈・石油燈等がある。

調節燈 光力強きに過ぎず、溫熱も多く加はらぬが高價なる上に、保存・掃除が不便である。

揮發油燈 安全なるものを、玄關・先渡り・廊下等に用ひる。

石油燈 前者よりも安全なる上に、光力が強い。而かも熱が烈しく、失火の虞がある。火口には、數式ある。油壺は、金屬製のものには安全なれど、其の下に暗がりの出来る點は、硝子製に劣る。空氣燈は、其の裝置が完備して居る。

三、瓦斯燈 マントル・下向火屋の使用



圖解 瓦斯燈
(白熱燈)

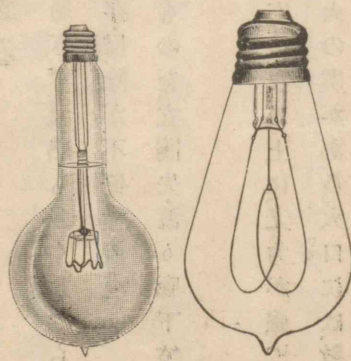
丸心・一枚心・二枚心・祭心

によつて、大に光力を増し、危険も減少したけれど、尚ほ温熱が高く、又煤煙が絶無でない。而かも價が高く、且つ設備上特殊の土地に限られて居る。アセチリン瓦斯は、製造容易、光色鮮麗の利はあるが、臭氣が強く、火災の患が少くない。

四、電燈 人工

燈火中、最も理想に近い電球に、カーボン電

球とタンゲステン電球とがある。タンゲステン電球は、費用を減じ、且つ設備上、瓦斯燈に勝り、光度を變へることが



解 照明器

電球
カーボン
タンゲス
テン電球

第五章 暖房燃料

第一節 暖房

容易で、點滅も亦便なるが、一般的ならぬは遺憾である。尚ほ近來、衛生的な照明器が行はれて居る。

イ、爐火鉢、手焙炬燵等 多く木炭を燃料とし、中には薪を用ひるが、暖房の効果が少く、空氣を汚損する。而かも我が國の中部以南では、氣溫の低下少なき爲、手先を暖むる丈の場合が多く、且つ紙貼障子が換氣の便を備ふる故、是等は、不完全ながらも大に實際の用を爲す。而して北部の寒氣稍強き地方に、炬燵の盛に用ひらるゝは、衛生上等に不利が多い。ロ、石油採暖器、アルコール採暖器 ランプと同じ様式である。輕便で煙突の必要がなく、且つ湯沸しを裝置する便もある。

るが、炭酸瓦斯の發生が多くて、空氣を汚損する。

ハ、瓦斯採暖器。炭酸瓦斯の發生は、

前者と優劣なきも、清潔で危険の虞

なく、使用上、勝れる所がある。本器

に煙突を取付くれば、換氣はよくな

るが、溫熱の幾分を失ふ外、据付とな

る不便がある。

二、暖爐。即ち鐵製ストーヴは、薪、石

炭、骸炭等を燃料にする。熱の利用上、

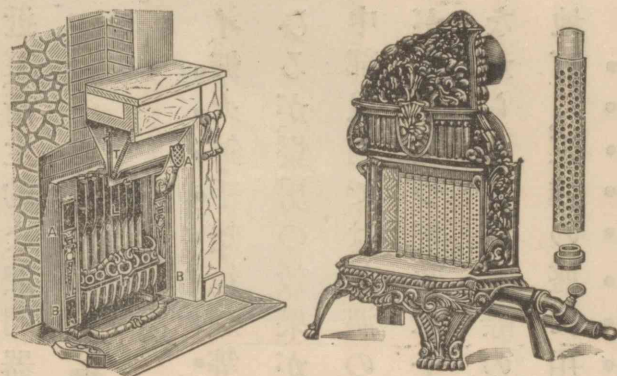
頗る經濟的であり、煙突を具へて換

氣を兼ねるが、火氣の調節が困難で、

熱し易く冷え易き上に、器の胴部が

圖解 瓦斯暖房器（右は据置用、左は取付用）

暖爐は携帯用の採暖器で、特製の木炭を燃料として通風口を備へる。罐内に熱を起す點に於ては、暖爐に似た所がある。尚ほ此等の外に熱氣、蒸氣、熱湯等に依る暖房器があるが、普通の家庭に



普及するに至らない。

堅木

樺・楡・飯桐・櫟
樺材は好く燃え、火力強く、煙が少い。飯を炊ぐに適する。櫟材は徐々に燃え、永續する長所がある。樺・楡などを煮るに適する。良質の炭は軽く、灰を發し、

赤熱して酸化炭素を發生することがある。煙突の掃除修復に注意して、火災を避けねばならぬ。耐火煉瓦製の特種暖爐は、最良のものである。ホ、電氣暖房器。點滅が便で理想的であるが、費用多きを爲、我が國の家庭には、未だ多く用ひられない。

第二節 燃料

イ、薪。水分多き薪は、燃え難く、且つ火力の一部が水分の蒸發に消費せられる。薪に、堅木・松・薪・雜木がある。堅木は、材質堅く、火力強く、煤煙の發生は少いが、價が高い。松・薪は、燃え易く、火力も強いが、炎が強過ぎて煤煙の多い缺點がある。雜木は、燃燒が速か、火力が弱き故、安價なれど不經濟である。ロ、木炭。種類が多い。並質に、佐倉炭・池田炭・鞍馬炭等があり、

唾液の爲めに白く
なる。
炭の剣ねるは、主
に炭中の瓦斯が熱
の爲めに膨脹して
爆發するのであ
る。炭を使ふ前に
充分に水を注け好
く乾かすときは剣
を防ぐ。

硬質に、堅炭・備長等があり、軟質に、土窯炭・松炭・消炭等がある。堅炭は、火附稍、遅きも、火力強く、火持永く、居間茶の間用に適する。備長は、火附が悪く、埋火に適しないが、火力が甚だ強く、七輪などに用ひて效が多い。佐倉炭・池田炭は、櫟の皮付材にて製したる所謂菊炭で、火附早く、體裁が好く、且つ埋火に適し、火持が永い。客間の火鉢・煙草盆等の用に適ふ。松炭・土窯炭は、質が弱く、火持は悪いが、火附が好く、價が安い。

ハ、炭團 火力弱く、體裁がわるいが、埋火に適し、火持が好く、價も安くて頗る經濟向である。

ニ、石炭 家庭用に供せらるゝは、下等の黒炭と、上等の褐炭とである。木炭に比して價安く、火力頗る強く、火持も好いが、煤煙多く、臭氣を放つが故に、煙突を設けなければ、使用し難

く、且つ不潔になり易い。採暖用浴室用に供して效果多きも、臺所用には適しない。

ホ、骸炭 即ちコークスは、石炭よりも火力一層強く、煤煙發生せざるも、燃附悪しく、供給も十分でない。

ヘ、石油 特殊の焔爐・煖爐に用ひて極めて簡便である。但し火災の原因となる虞がある。

ト、瓦斯 石炭瓦斯は、燈火用として效能多く、熱用として一層有力である。火力強く、煙及び臭氣の發生なく、且つ不潔の虞がない。而して使用上頗る便利で、家庭燃料として理想的に近いが、價が稍、高くて、供給が十分でない。

第六章 給水排水

第一節 給水

給水は、泉・河・井戸・水道による。水質に従って飲料水と雑水とに分ける。

イ、泉 泉水は、地下より湧き出づる水で、其の良否は、主として地層の性質・深淺によるが、又附近の都會・水田等に關係が深い。飲用上、注意せねばならぬ。

ロ、河 山間の溪流は、概ね清冽なるも、平野に出でて耕地の水を交へ、更に都會の汚水が加はつて不潔となる。水源地に遠からぬ中流・細流は、往々良質の水を供し、飲料水・雑水に用ひられるが、降雨に際して濁り、又傳染病を媒介する。

ハ、井戸 掘井戸・掘抜井戸・噴水井などがある。水質の良否、水量の多寡は、主に地層の深淺に依る。而かも井戸側の構造、井戸内の清潔等に注意し、換氣の必要を忘れてはならぬ。掘抜

井戸の水は、概して掘井戸の水に優れるも、井戸側の構造、井水の汲取方等に留意して、地上水の浸入を避け、換氣を促す必要がある。井水の汲取方に、繩釣瓶・竿釣瓶・撥釣瓶等があり、各得失が一樣でない。車井戸は、力を節すれど、轆轤の楔釣瓶・繩の破損に危険が伴ふ。唧筒は、扱ひ易きも、修繕と換氣とが困難である。

ニ、水道 源流を淨水池に導き、濾過・殺菌を施して各戸に給水するもので、安全且つ便利である。但し其の設備に、多額の費用を要する故、大都會に非ざれば、築設することが出来ぬ。

第二節 排水

排水は、屋上・地所内に降下する雨水や、臺所等より排泄する汚水を始末することである。下水工事の完全なる土地にあ

つては、所謂全下水主義を實行して、家庭生活に便なるのみならず、公共衛生上にも好都合である。
 イ、溝渠 適宜に溝渠暗溝を設け、時々之を浚渫して、汚物の停滞を避け、悪臭の發生するを防ぐ。
 ロ、地上と衛生上、害多き濕地には、十分、地上げを行ふがよい。
 ハ、敲土 土臺下、牀下等を混凝土、敲土で固め、雨水の流入、濕氣の發生を防ぐは、衛生上、家屋保存上、肝要である。

第七章 掃除

第一節 掃除の必要

屋内・庭園は勿論、屋上・牀下に至るまで、充分に掃除して清潔を保つは、よく衛生にかなふのみならず、住宅の整頓、家屋の修理・保存にも、極めて必要である。

硝子窓拭きとき洗掃除



圖解 ハタキの
種類 (a' は不
良 a'' は良)

掃除の区分

縦面

壁面(塗壁・瀬戸
引瓦)

横面

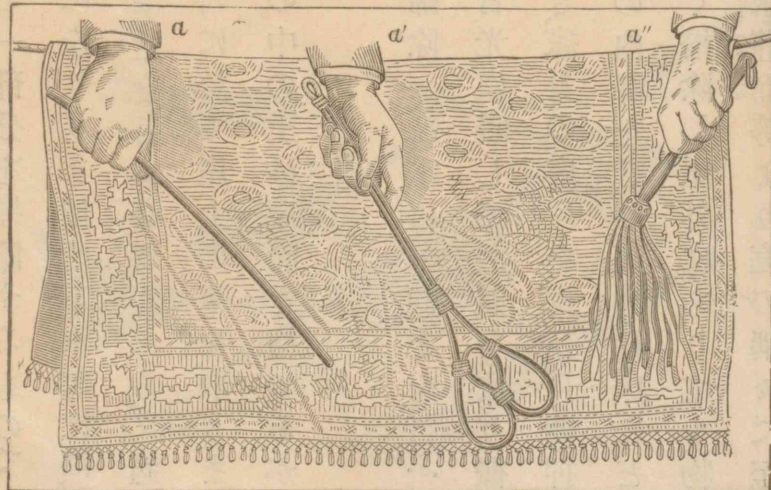
天井(板張・塗・
張紙)・板敷・敷
瓦・畳・蔦蔦・敷

掃除用具

草箒・程心箒・も
ろこし箒・竹箒・
棕桐箒・ブラシ

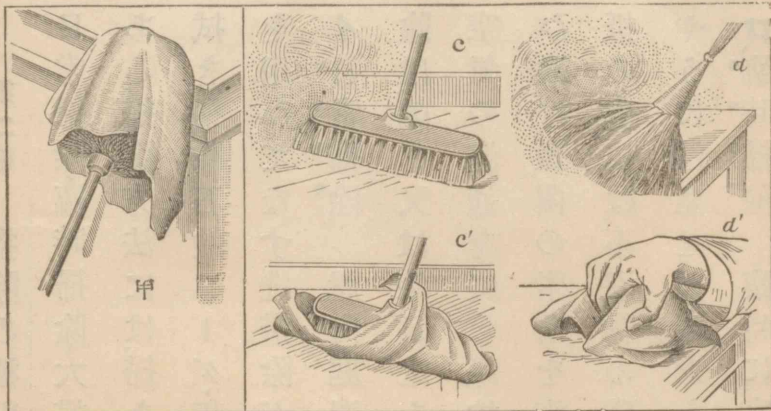
第二節 掃除の種別

日常掃除・臨時掃除・大掃除がある。掃除方法には、掃き掃除・拭き掃除・石鹼ソーダ灰汁等を用ひてなす洗掃除がある。イ、日常掃除 屋内・庭園の掃除は、朝夕又は毎日之を行ひ、空氣の流通を促し、塵埃を拂ひ除け、黴菌の附着を避け、大抵の處には、不潔物の残らぬやうに注意せねばならぬ。ロ、臨時掃除 臨時に、家屋の



箒 はたき・紙
片・布片・馬尾
毛・羽毛
雑巾・布片・刺雑
巾・ブラシ・刈
茅・ブラシ・茶葉・
菜削・吸塵器・
電氣吸塵器

圖解 掃除用ブ
ラシの使ひ方
(甲は良c'dは
不良c'dは良)



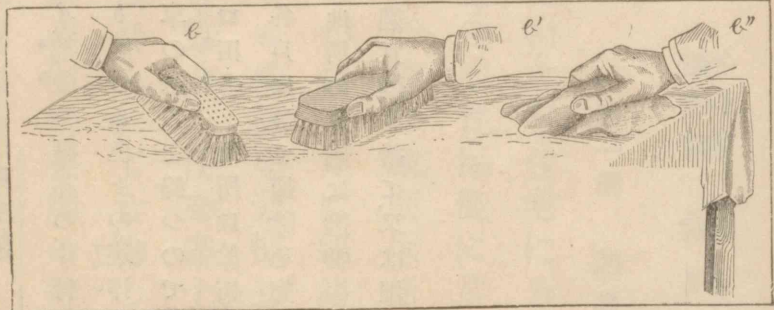
内外の一部分を掃除するもので、
不潔になり易き便所・下水等には、
特に屢之を行ふ必要がある。又適
當の時に於て、屋上の草を取り、ま
た樋の中の土砂を除き捨つるが
よい。

ハ、大掃除 秋季に一回之を行ふ。
疊を日光に曝して濕氣を去り、黴
を除き、家具の塵埃を拂ひ、戸棚押
入等の内部を拭ひ、天井・壁・床など
隈なく掃除し、屋外にありても、物
置・下水芥溜等より庭の隅々に至

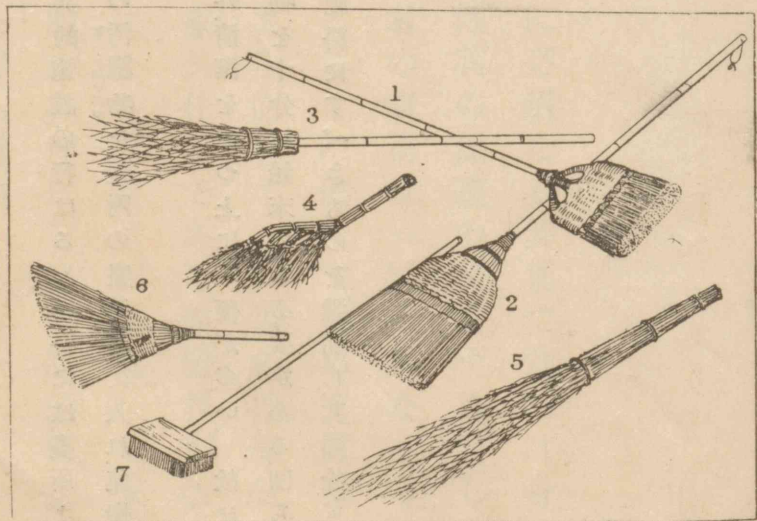
圖解 敷物掃除
具

り蓋根ブラシ
(綬通の 除に
よろし、し室
内に塵埃 放散
せしむ)
り豚毛ブラシ
(軟質で毛織の
掃除によろし、
但し塵埃を除く
するよりも移動
せしむるに過ぎ
ない)
り雑巾(敷物掃
除の最良法は先
づ之を屋外では
たき、更に軟い
雑巾でぬぐひと
る)

圖解 類(1)
掃相箒 ヤ箒
竹の外箒 竹の
小箒 5竹の尾箒
6 程心箒 7ブラ
シ箒



る迄清潔
法を行ふ
べきであ
る。又大掃
除の際に
は特に破
損の箇所
を調べて、
修復を怠
らぬ様に
せねばな
らぬ



第三節 塵芥の處分

イ、都會 塵芥の片付方につきて、公共的施設の行はるゝ場合には、臺所より出づる色々の殘滓と共に、總べての汚穢物を、蓋附の塵芥箱に入れ、集搬車の來るを待つのである。

ロ、田舎 地所に餘裕があつても、案外、清潔を保つ上に不便が多い。故に各戸に於て、掃除を完全にし、又汚穢物を十分に始末する必要がある。即ち地所の片隅に適當の芥溜を設けて、肥料にすべきものを選別し、其餘を、適宜焼き捨て、又は埋めるがよい。

第四篇 家具什器

第一章 器具の職能

食物・衣服・住宅は、吾れ等の生活に必須なる要素で、食物は、身體の生育保健に當り、衣服・住宅は、其の保護の任をする。而して吾等の家庭生活に對する三者の責務は、一層微妙なるものがあり、互に連絡・統合・協力することに依つて、始めて眞にその機能を發揮し得るものである。而してこれ等の連絡・統合・協力の任を盡すものが、即ち家具什器である。庖廚具が改良せられて、食物の利用が完全になり、飲食器が完備して、家庭の團欒、來客の待遇が進み、衣服の整理は、容器の狀態に俟ち、飾器・装具は、容儀を整へ、趣味を養ふ材料となる。

第二章 器具の配置

家具什器は、日常用と臨時用とに分れ、前者は、住宅の各室に配置せられ、後者は、適宜に藏納せられる。

イ、玄關 來客の帽子・履物^{はきもの}、其の他携帶品を始末保管する爲、帽子掛・外套掛・洋傘立・履物置等を備へる。

ロ、客間 來客を優遇する場所なるが故に、趣味と品格とを供へ、實用に適ひ、相應の裝飾あるものを備ふべきである。客間に、日本式・西洋式・折衷式がある。

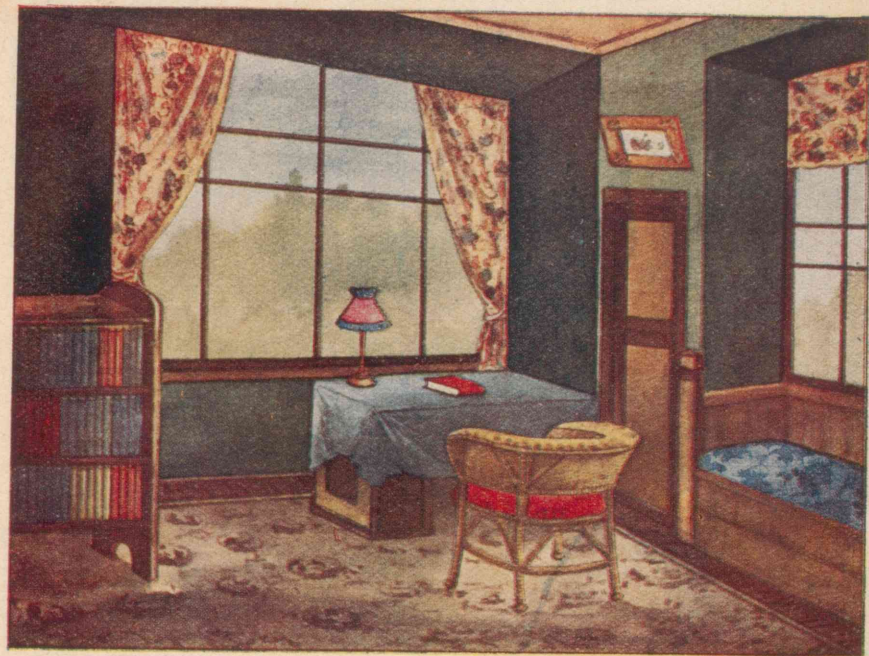
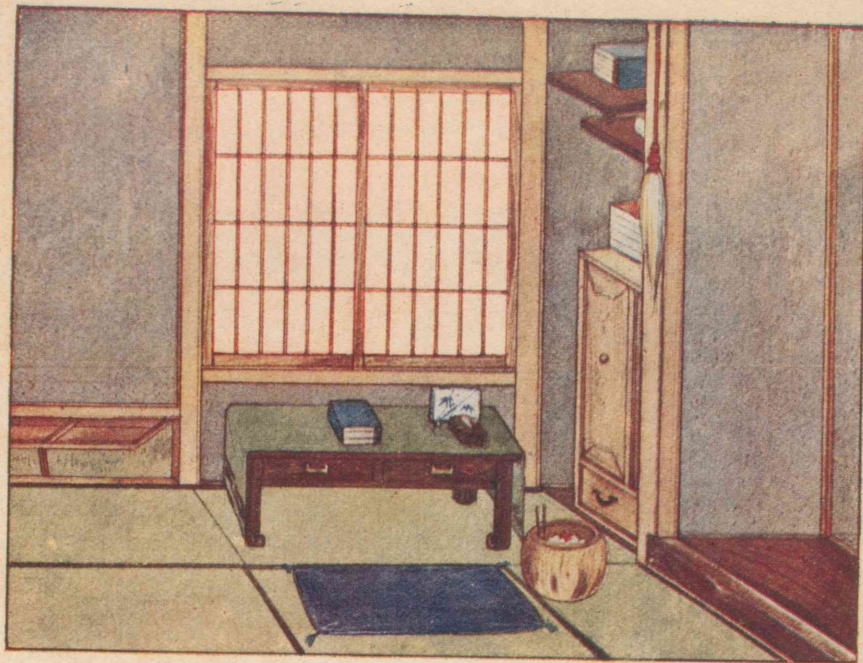
日本式の客間には、裝飾用として額面を始め、床の軸物・置物・卓、並に床脇棚の文臺・硯箱・文庫等を備へ、接待用として手焙^{てあぶり}煙草盆・座蒲團・茶器・菓子器等が必要である。

西洋式の客間には、椅子（並椅子・肘懸椅子・長椅子）卓子・隅棚懸

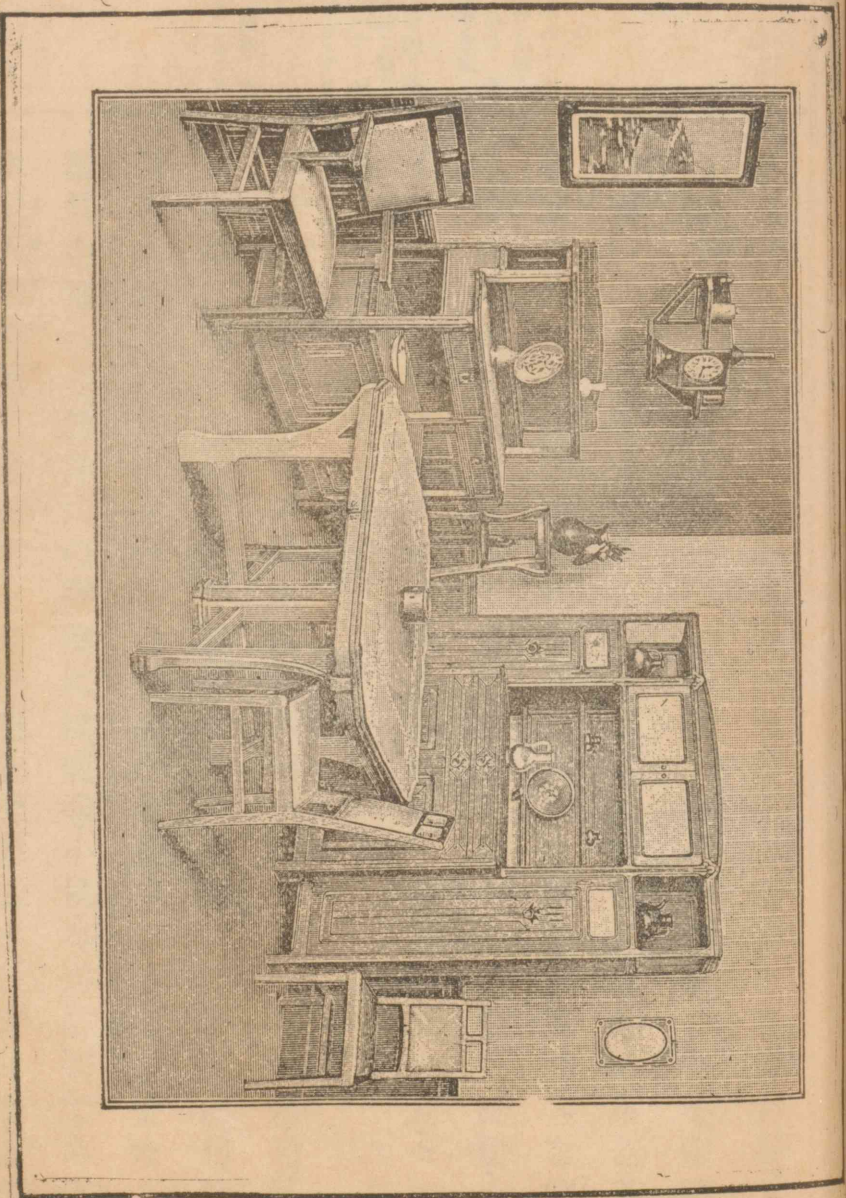
衛立

×香爐・香盆・花
生・花臺・机・書
棚・短冊掛・畫
帖・置時計・屏風

和洋式書齋



洋式の食事室

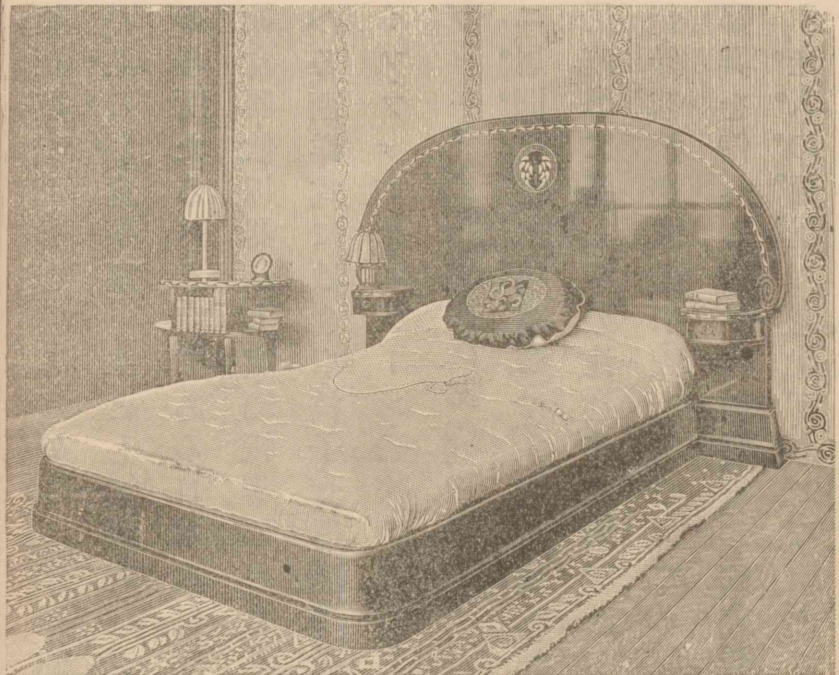


茶器
鐵瓶・湯沸し・土
瓶・急須・茶碗・
湯呑・建水・茶
壺・茶筒・茶盆
食器
飯櫃・膳・椀・茶
碗・皿・鉢・箸
箸函・スプーン
・フォーク・ナイ
フ等
飲用器
酒盃・酒瓶・水
瓶・水呑・コップ
等

額花瓶・喫煙器を備ふる外、珈琲用器・銘酒用器を用意する。
ハ・茶の間・食事室 主として家庭に於ける娛樂の中心、團欒
の場所たるべき室である。日本式には、長火鉢を始め、茶器・茶
棚・食器・飲用器・鉢力罐・蠅帳等の外、食卓・座蒲團・敷・蓆等タタミを備
へる。西洋式には、食卓・椅子・食器棚等を備へ、食器類に、皿類・ナ
イフ・フォーク・スプーン・添味品入れ・菓子器・果物籠・水瓶・セル
ヴィエットセロ（拭布）・口洗器等がある。

二・居間 主人用（書齋）は、主人の所用趣味で異なり、防寒・通氣・
居座等に關しての注意が必要である。主婦用（寢室）には、用簞
笥・針箱・鏡臺・衣紋掛・衣桁等の外に、小兒・幼兒の爲に必要な
器具を備へる。西洋式の寢室には、寢臺・小机等が必要である。
ホ・老人の部屋 老父用と老母用とで異なるが、防寒・採煖・食事

圖解 寢臺

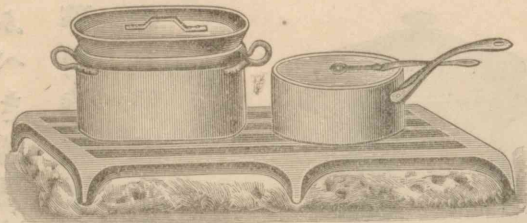


等の器具に注意を拂はねばならぬ。且つ趣味と所用とに適切ならしめる。へ子供の部屋 男女年齢に依つて考へ、机・本箱・文具并に敷物に注意して、質素・儉約を旨とし、器物の善用に慣れしめる。

ト、納戸 衣服の藏

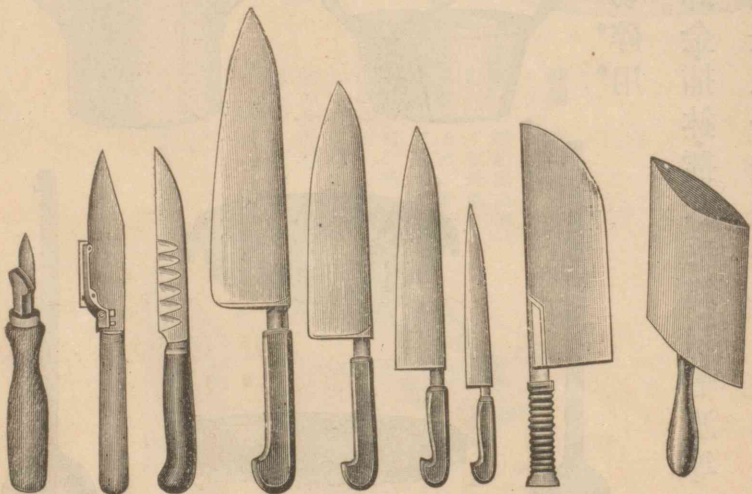
× 箆筒・長持・葛籠・行李・皮槓・合切袋

圖解 庖刀類
圖解 改良鐵弓



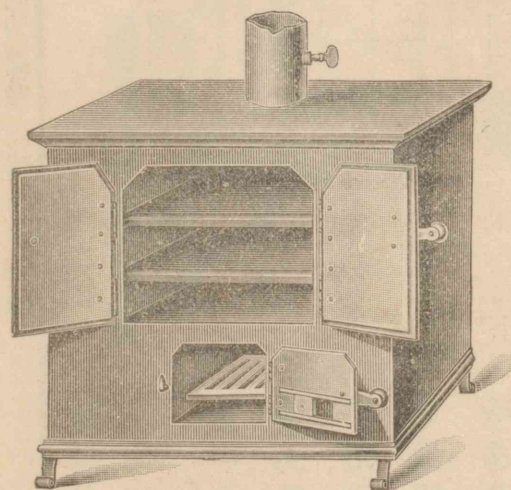
納・使用・保存に適切なる容器を選ぶ。臨時用の飲食器を併せ納むるには、

釣棚・置戸 棚を構へ、日常用の衣服には、亂箱・亂籠・洋服掛等を備へる。チ、臺所 臺所に備

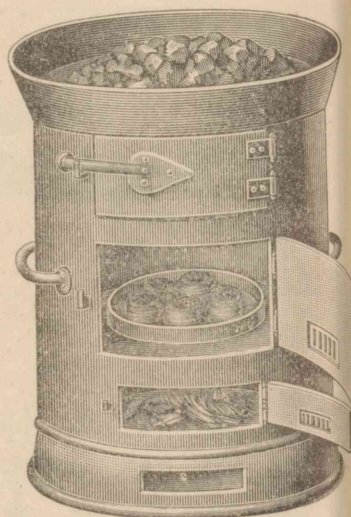


具 厨 庖

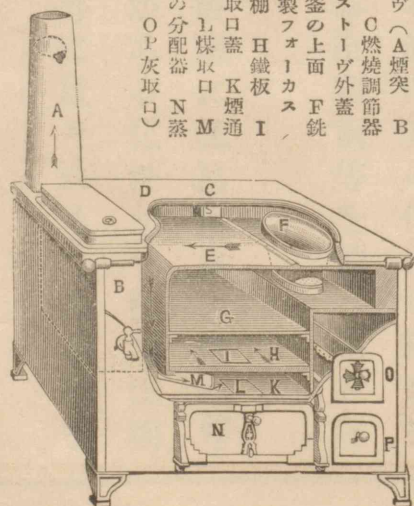
圖解 野菜子調製用ストーヴ



圖解 据置式庖厨用ストーヴ

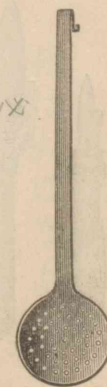
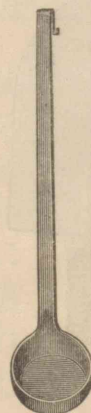
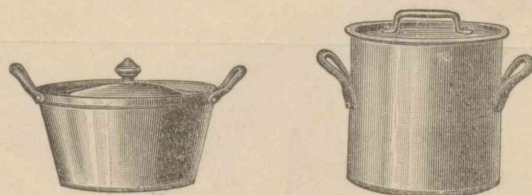


圖解 庖厨用ストーヴ (A) 煙突 (B) 釜 C 燃燒調節器 D ストーヴ外蓋 E 釜の上面 F 鉄製フオーカス G 棚 H 鐵板 I 煤取口蓋 K 煙通 L 煤取口 M 熱の分配器 N 蒸釜 O P 灰取口



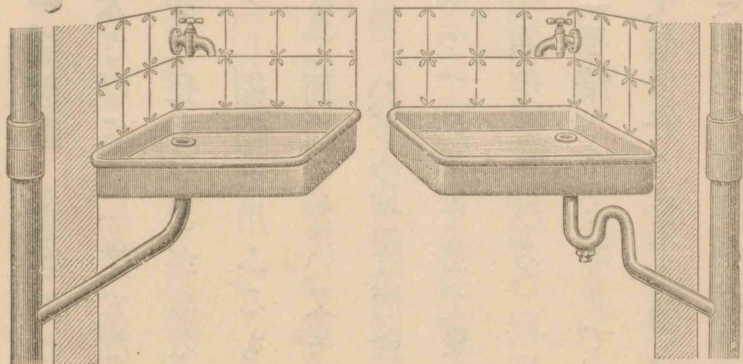
圖解 各種の鍋 (上段) 土燒煮出釜土燒手鍋中段 煮込用深鍋アルミニウム製深難用鍋下段 丸形燒鍋楕圓形燒鍋并に泡掬ひと金杓子

ふべき器具は、洗滌用切碎用、燒煮用、造形用、雜用の五種に分たれる。洗滌



用に、流し、桶柄杓等がある。切碎用に、組庖刀、小刀、削鉋、箱皮剥器、卸金、搥鉢、搥木、毛篩、味噌漉等がある。燒煮用には、竈、七輪、焙烙鍋、釜、玉子燒、鐵弓、鐵串、金網、天板

「解 洗面場用
流し」右はサイ
フォン附（衛生
的）左はサイフ
ン無（非衛生
的）



蒸籠等があり、造形用に泡立・注込箱・押箱・打拔形等がある。又雑用に、瓶壺・片口鉢・火消壺・十能スプーン・フォーク等がある。尚ほ其の他に、切碎臺・盛付臺・水瀝器・冷藏函等を備へることがある。

リ湯殿 浴室に、風呂槽・風呂・小桶・手拭掛等がある。化粧室・手洗場・洗面場・洗濯場等には、それらの器具を備へる。

第三章 器具の選擇

家具什器の若干に付、其の選擇使用

上の注意を述べよう。

圓座に皮蒲團・油
團・蘭筵等がある。

一、座蒲團 來客用のものは、調製上、特に注意を要する。イ、
大さ・厚さは、一樣でないが、過大なるは好ましくない。形に、方
形と長方形とがある。ロ、用布は、太織・紬・銘仙・郡内縞等を主
とし、縮緬を用ふるもよいが、縹子・緞子を用ふるは、尊大に過
ぎて面白くない。又モスリン・フランネル・更紗等も用ひられ
る。ハ、多少、色合・柄合が裝飾的なるはよい。派手に過ぎれば、
却つて品格を落す。夏季用には、特に越後上布・麻織・芭蕉布・鳳
梨布等を用ひる。

二、手焙 色々ありて、形狀・用材等も一樣でない。

イ、品格好く、目方軽く、扱ひに便なるものがよい。

ロ、桐・桑・紫檀等の方形のものを主とし、丸形・小判形に仕上げ

樂焼物は釉藥の色
に従つて黒・赤
・青・黄に分たれ
る。

たる桐の刳拔もの、漆器・陶磁器・青銅器製のものなどがある。

三、煙草盆 方形・長角形・丸形等があり、深さも一樣でない。

イ、唐木物と塗物とに分れ、唐木物は、莊重・率直の趣が具はる。

塗物は、婉曲・輕軟の情表はれ、手提式には、一段の雅致がある。

ロ、火入の取合に注意すべきものがある。染付の瀟洒・錦手の

艷麗、青樂の脱俗、古銅・錆鐵の滋味等皆それぞれの趣がある。

四、茶器 來客用に重きを置き、品種の取合に趣味あらしめ
ねばならぬ。

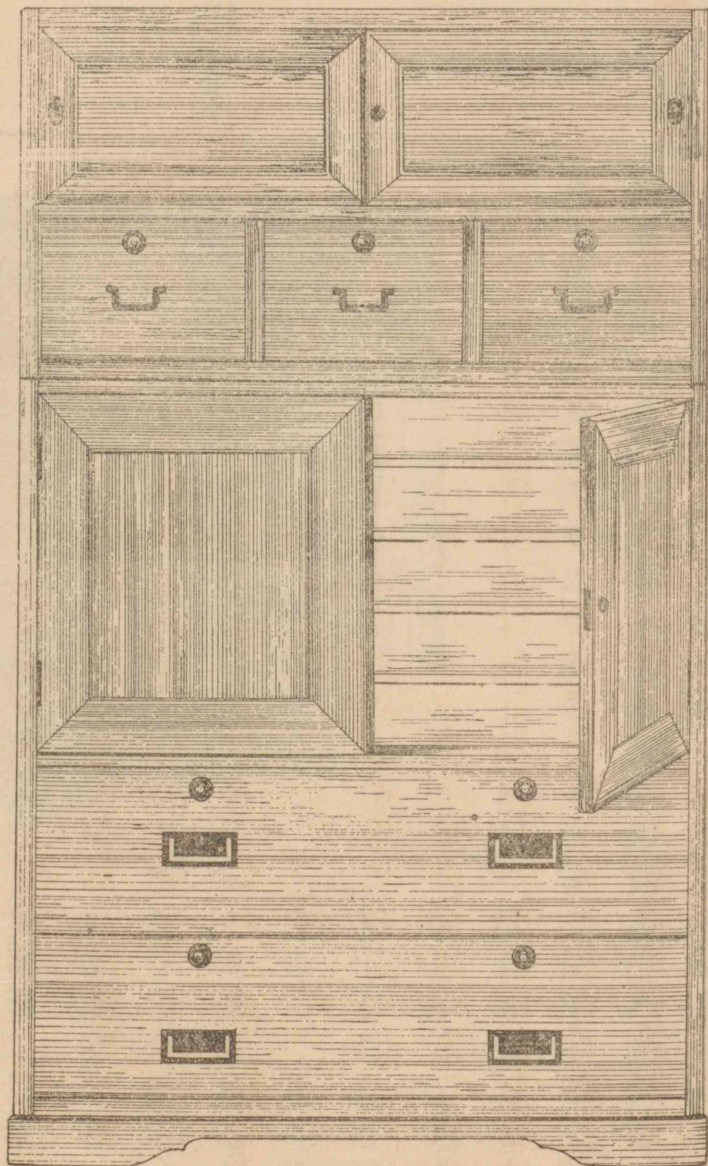
イ、茶碗と茶托とは、孰れも五客分又は十客分を取揃ふる必
要がある。急須・茶碗・湯冷しを取揃ふるは、販賣者の都合であ
るが、急須と茶碗との取揃は、趣味の上からも面白きものが
少くない。

×
染付物・錦手物・金
欄手物

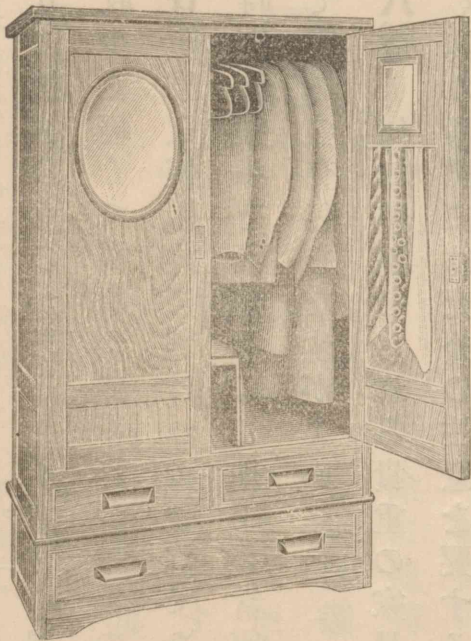
×
筒形・桔梗形・壺形

口、茶碗は磁器製で、大さ形の整ひたるものがよい。
ハ、急須も磁器製で、丈夫なるがよい。
ニ、湯冷しは、磁器・陶器製の外、錫器を用ひれば雅趣が多い。
ホ、建水^{こしら}には、青銅器・錫器がよい。
ヘ、茶托は、青銅器を普通とし、錫器を用ふれば高尚漆器を用ふれば優美となる。
ト、茶入は、殆ど錫器で、其の形狀は、様々である。
チ、茶盆は、唐木物・漆器・木地物・眞鍮物等の種類がある。
リ、茶櫃は、茶盆に蓋と手提とを添へたもので、塵埃を避ける
と、通ひに好都合なるとの外、體裁にも面白い所がある。
五、菓子器 有蓋式・無蓋式に分れ、焼物製と塗物製とがある。
イ、菓子鉢は、陶磁器・漆器で作られ、形も色彩も様々である。

改 良 單 筥



圖解 洋服箆筒



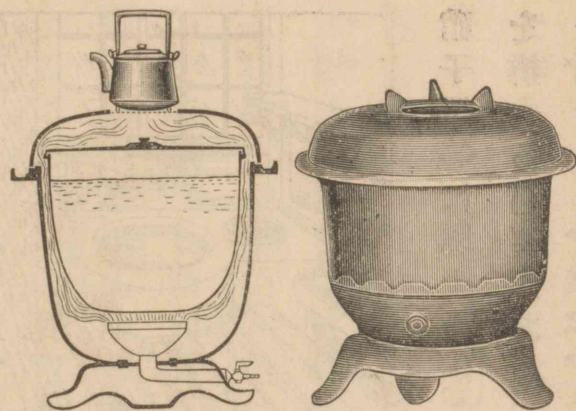
口喰籠蓋物は、多く漆器製で、様式と色彩とに變化が多い。
六、長火鉢 茶の間に備へられ、家族團欒の中心點たる感があり、極めて重要なものである。イ、堅牢で、使用が便で、品格

のあるものを選ぶがよい。口、抽斗ひきだし落し下があれば、便利である。抽斗は、よく乾燥状態を保ち、特殊の食品を藏納するに適する。
七、箆筒 男箆筒・女箆筒の別があつて

衣服を收容する。而して近來行はるゝ洋服箆筒は、抽斗の代りに抽棚のものがある。イ、用材に桐を用ふれば、濕氣の吸収少く、輕くて樹脂が無く、且つ抽斗の活用に適してゐる。ロ、藏納式使用式に別ければ、便宜である。一本のみの箆筒の時には、抽斗を藏納用にし、抽棚を當座用に充て、季節に應じて容器の交替^{かた}をなすがよい。

ハ、竈 毎日使用せられる貴重^たの家具で、燃料との關係が深く、其の選擇には、充分の注意を要する。近年、色々の改良が行はれ、薪焚竈、木炭竈、コークス竈等がある。イ、在來の竈は、陽氣で、捨て難い所もあるが、火力の損失、煤煙の放散等の大缺點がある。ロ、改良竈中で、瓦斯竈は、使用が簡便で、清潔である。但し燃料の供給が困難で、且つ價が高い。

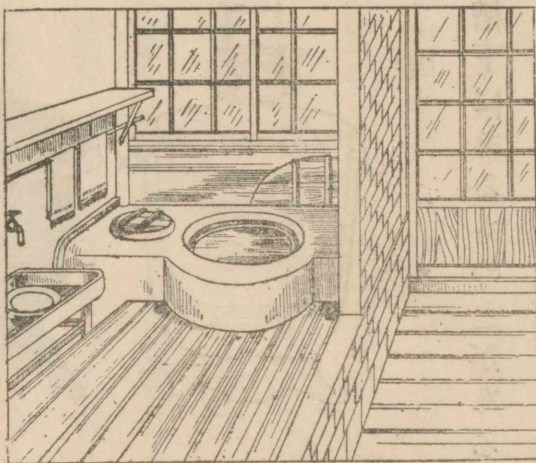
圖解 改良瓦斯竈（巴竈）



九、湯槽 形狀に依つて利害を異にする。イ、函形は、容量が多いが、掃除に不便で、設備上の費用が多い。ロ、丸形は、輕便で、場所を要せず、經濟向である。ハ、小判形は、掃除に便利で、價も相當である。

一〇、風呂罐 種々の様式があり、使用上に便不便を生じ、燃料及び費用に關することが多い。イ、罐の据付が、湯槽の一隅にあるものと、槽下にあるものとがある。後者は、火力の利用が優れ、前者は、湯槽焚口の裝置が勝る。ロ、舊式の風呂罐は、薪炭の外、藁木

圖解 長州風呂
の湯殿



硝子器等に属するが、これ等の器物の特質を知り、其の利害を辨へる必要がある。

手桶[×]・小桶[×]・米浙
桶[×]・盤[×]・盥類

一、桶類 杉・花柏[×]・扁柏[×]等の細長き小板を、竝べ繞^{めぐ}して側^{わき}とし、

葉等の如き燃料を用ひ、改良風呂は、煙突を設けて、石炭・骸炭等を使用し得るものが多い。長州風呂は、在來風呂の一種である。設備上稍、手数を要するが、使用が簡便で、經濟的である。

第四章 器物の特質

家庭で用ひらるゝ器物は、桶類・指物・唐木物・漆器・金屬器・陶磁器

箱函物
簞笥・用簞笥・置
戸棚・書函
足付物
椅子・臂掛椅子・
長椅子・安樂椅
子・机・卓・書籍
棚・食器棚・飾棚

唐木
紫檀・黒檀・鐵刀
木・華欄・桃心
木・黄楊木
地木
烏桑・樺・鹽地・
樟・柿・槭

圓形又は楕圓形の板を底とし、竹製又は金屬製の箍で締めたる器物である。(一)餘り丈夫ならず、(二)臭氣が滲込み易く、(三)腐敗に抵抗することに弱い缺點があるが、(イ)よく洗滌に堪へ、(ロ)修復困難ならず、(ハ)價安く、(ニ)輕便なるが爲、雜用に適する。飯櫃は、通常、花柏[×]で作り、四斗樽・醬油樽と共に、桶類に屬する。二、指物 桐・扁柏[×]・花柏[×]・杉・樅・樟[×]・鹽地[×]等で作り、竹釘で釘締するを特徴とし、箱函物と足付物とに分れ、日本式・西洋式の別がある。木地の儘なるを主とするも、春慶塗・黒塗・假漆塗等にするところがある。實用と裝飾とに互つて品種が多い。

三、唐木物 唐木[×]に地木[×]を交へ、轆轤^{ろくろ}に依りて着木^{きせ}を爲し、彫刻・象眼等を施して製作したる高等家具で、膠付を基礎とする點が指物と異なる。書棚・茶棚・机・卓・硯箱・火鉢・煙草盆・盆類等

透塗 春慶塗・撞合塗・
平塗 本地蠟塗
黒塗・朱塗・洗朱
塗・瀾塗・青漆・
梨地塗
漆器
膳・杓・箸・匙・箸
箱・重箱・切溜・
盆・廣蓋・盃・盃
臺・盃洗・菓子
器・花生・花臺・
卓・棚・三方・針
箱・鏡臺・手箱・
爪箱

がある趣味に適ふものを選び、丁寧に扱ひ、拂拭を怠らず、保
存に注意すべきである。
四、漆器 塗物と呼び、我國と支那との特産で、各種の素地に
成れる器物に、漆汁を塗つて仕上げる。飲食器を主とし、茶室
具・文房具・裝飾具等がある。飲食器殊に碗類は、(一)輕くて(二)音
がなく(三)熱を導かず、(四)漆層が水分の吸収を妨ぐる長所が
あるが、價が概ね高く、日常用に適しない。下等品は、(イ)外觀醜
く、(ロ)丈夫ならず、(ハ)漆層が剥げ易い。木地に檜・樺・栗等の外、鐵
葉・張拔で素地を作り、其の外面に透塗・平塗・地紋塗等の漆塗
を施すのがある。別に漆繪・蒔繪・彫繪・象眼等を加へて、裝飾と
することがある。

五、金屬器 銅・青銅・唐金・眞鍮・輕銀・錫・鐵等で作る。堅牢で火に

青銅器
鍋・火鉢・花瓶・
置物
眞鍮器
藥罐・燒鍋・佛
器・金盃・金盆

圖解 金物のフ
ォーク・スプ
ーン(一)前菜用フ
ォーク(二)牡蠣食
用フォーク(三)ア
スバラガスすく
ひ用二重匙(四)ソ
ブ杓子(五)アイ
匙(六)魚用食器(七
切裁用器(八)サラ
ダ用食器)
圖解 サモバ
儿(湯沸し)

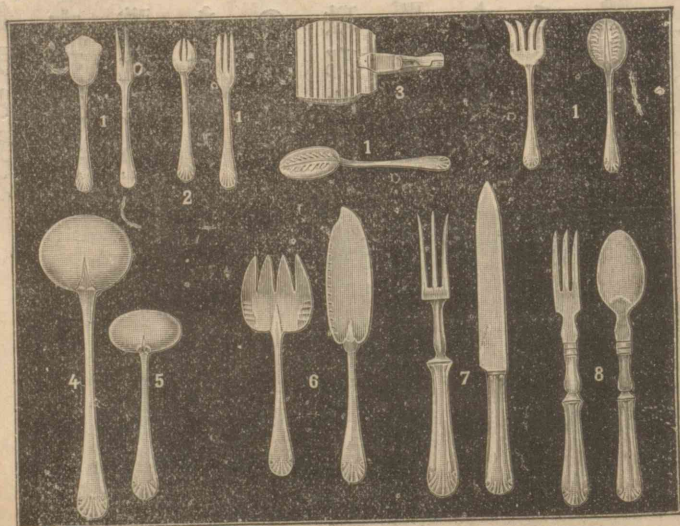
輕銀器
盆・皿・鉢・燒鍋・
湯沸し・飯蒸器・
辨當箱
錫器
茶壺・茶托・酒瓶

堪ふる故、用火具・耐火器を作る。打製・鑄造に便利で、彫刻が困
難でない爲、裝飾的の器具を
製するに適する。銅を含むも
のは、綠錆の如き有毒物が發
生する故、飲食器には、白鐵を
其の内面に布く。



鐵器は、
丈夫で
安價で
あるが、
錆を生

じ易い故、表面に塗料を施し、



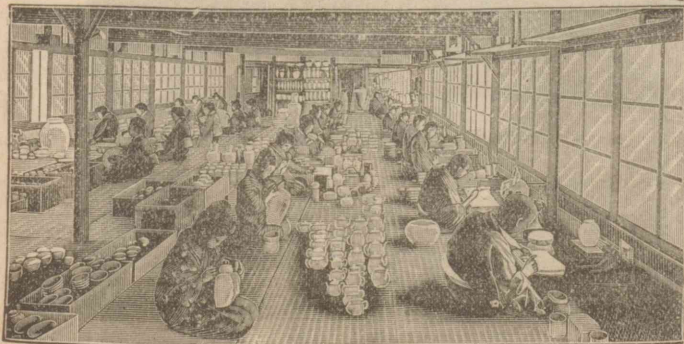
鐵器
鍋・釜・鐵瓶・燵
爐・煮物鍋・揚物
鍋
鍍力罐
亞鉛引物
水器
バケツ・柄杓・濾

圖解 陶器の上
繪揮毫
圖解 磁器製紅
茶用具

又は錫着せ・ニッケル鍍金・亞鉛引とする。



六、琺瑯器
酸化し易
き金屬製
の器物に、
琺瑯的被
覆を施し
たるもの
である。(一)
體裁よく、
(二)腐蝕に
堪へ、(三)丈



夫なもの少くない。

七、陶磁器 各種の原土を用ひ、製土・造形・着釉・加熱・施飾等を
經て仕上げる。飲食器を主とし、其の他に、文房具・裝飾具・雜用

陶器
土瓶・德利・茶碗・
酒盃・鉢・皿・小
皿・急須・湯冷し・
酒瓶・花瓶

圖解 硝子器製
造
硝子器
水呑・水瓶・酒盃・
酒瓶・皿・鉢



具等がある。(一)不滲性を具へ、(二)酸化
に堪へ、(三)清潔を保ち、殊に飲食器に
適するが、(イ)音が高く、(ロ)概して丈夫
でない。外觀が美麗・優雅なものは、装
飾に適する。

八、硝子器 各種の硅酸化合物より
成れる原漿を用ひ、吹製・型製・鑄製の
一つで造られる。原料に因つて硝子
質を異にするが、孰れも特殊の光澤

と結構とを具へる。

(一)透明で、(二)腐蝕せず、(三)清潔を保つに便利であるが、(イ)毀れ易く、(ロ)高温に堪へぬものが多い。

第五章 器物の

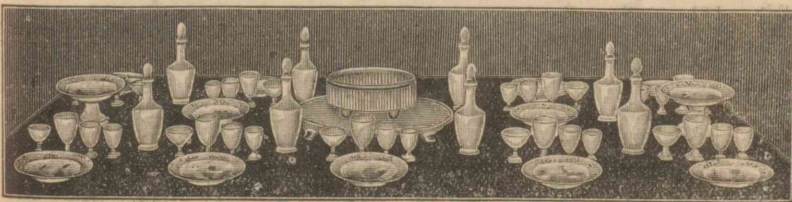
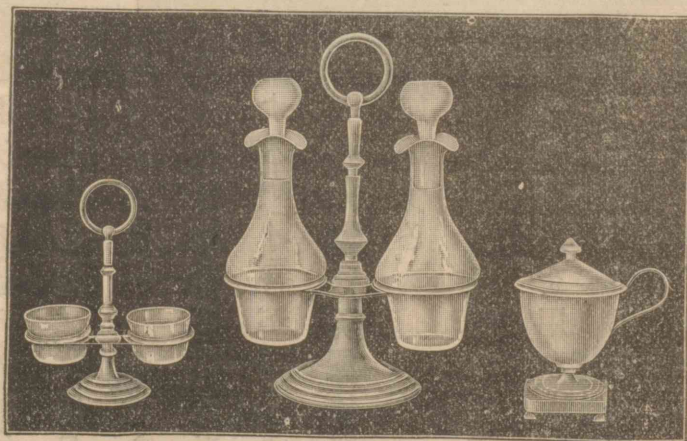
手入

一、木具類

イ、白木物 箆筒・本

箱の類は、乾布拭を

なし、桶類・俎・盥等は、石鹼・磨粉などを用ひてよ



圖解 上は右より芥子入れ・油入れ・鹽入の硝子器・下は硝子器のコーブ類

く洗ひ、風通しのよい所で乾かすがよい。

ロ、塗物 ワニス塗は、濕布を用ひず、常に乾布拭をなすがよい。漆器類の硯箱・針箱等は、塵を拂ひて乾布拭をなし、指痕をつけぬやうにする。水に浸すべき膳碗等は、使用後溫湯で洗ひ、乾布で拭ひ取り、更に糊入紙で艶拭をするもよい。

ハ、艶付物 塵を拂ひ、乾布拭をする。艶を出すには、イボタ蠟等で艶拭をする。

二、金物類

イ、鐵器 錆を生ぜしめぬやう、常に手入が必要である。鍋釜の類は、底の煤を去り、外部を灰・磨粉で磨く。鐵瓶は、使用後、中の湯を捨て、火氣にかけて内外を乾かし、七輪は、使用後汚物を拭ひ、油又は石墨末を塗る。庖丁類は、よく濯ぎて乾布拭を

なし、水氣を去り、毎日使用せぬ物は、油を塗つて錆を防ぐ。
口、銅・眞・鍮・器 有毒なる綠・錆を生ぜしめぬやうに手入する。
水に浸して差支なきものは、石・鹼・灰・磨粉等を用ひて洗ひ、水
氣を去る。水に浸すべからざるものは、乾布拭をなすがよい。
ハ、亞・鉛・ニッ・ケル・器 バケツ・ナイフ等は、あまり磨かずによ
く洗ひ、水氣を去り、乾かして置く。

三、陶磁器・硝子器

イ、使用後温湯で洗ひ、水で濯ぐがよい。

ロ、腥氣・脂・油氣のある物は、石・鹼・洗・濯・曹・達・灰で洗ふがよい。
ハ、茶・澁のついたものは、鹽・灰などで磨くがよい。

家事教科書「上巻」終

大正十二年十一月二十五日
大正十二年十一月三十日
大正十三年一月四日
發行
日訂正
日訂正
日訂正
發行

家事教科書 定價金六拾八錢
上巻 定價金五拾貳錢
下巻 定價金五拾貳錢
金壹圓貳拾貳錢
金九拾四錢

著作権所有

著者

家庭經濟研究會

(右代表者 野口保興 川上美佐)

發行者

東京市牛込區揚場町壹番地
外 松 荒 三

印刷者

東京市牛込區市谷加賀町壹丁目拾貳番地
根 本 力 三

發行所

東京市牛込區揚場町壹番地
帝國書院

不許複製



販賣所

東京市牛込區揚場町壹番地

雪書院

振替口座東京三三九番

關西販賣所

大阪市東區南本町四丁目

三宅莊藏書店

振替口座大阪六九番

